

# 輝 SONODA SPORTS PRESS

経験値教育。  
**園田学園女子大学**  
 園田学園女子大学短期大学部  
 〒661-8520 兵庫県尼崎市南塚口町7-29-1  
 [学部・学科]  
 ●人間健康学部/総合健康学科 ●人間教育学部/児童教育学科  
 ●人間看護学部/人間看護学科 ●短期大学部/生活文化学科  
 食物栄養学科 幼児教育学科  
 お問い合わせ先 スポーツ振興センター  
 TEL 06-6429-9137  
 FAX 06-6429-9116  
 URL http://www.sonoda-u.ac.jp/sports/index.html



関西リーグ優勝に貢献した則信・木村組  
 関西リーグ優勝に貢献した則信・木村組

主将の松下歩美(総合健康学科4年)は「練習以外でも先輩後輩で

テニスの関西大学対抗リーグ(平成27年9月)は園田学園女大が4勝1敗で5年ぶりに栄冠に輝いた。続く全日本大学対抗テニス王座決定試合はベスト4に進出。その原動力となった加治遥(総合健康学科3年)は個人戦でも全日本学生室内選手権(同年12月)のシングルス優勝、渡邊はるか(同1年)と組むダブルス準優勝と存在感を發揮。充実したシーズンを送った。

## 高い集中度で関西制覇

テニス部が躍動した。2年間出場権を獲得できなかった王座決定試合に出場し、全国4強に進出。エース加治の活躍に触発されて、各自がレベルアップに取り組んだ努力が実った。上位2校が王座決定試合の出場権を得る関西大学対抗リーグ。初戦のダブルスで加治・渡邊組がまさかの黒星。則信ゆめ(総合健康学科3年)・木村優布子(同2年)組や大石歩美(食物栄養学科2年)がカバーして神戸親和女大を退けると、難敵の関西大、関西大にも競り勝った。



## 関西大学対抗リーグ 全日本学生室内

テニス

関西リーグの最終戦を白星で飾れず全勝Vを逃した。同リーグで勝利した園田大に王座決定試合の3位決定戦で完敗した。最大の目標「王座優勝」を達成するには、こうした詰めめの甘さを排除しなければならぬ。加治が最終学年を迎える来シーズンは最高の輝きを放ちたい。

## 王座4強と加治の栄冠

その王座決定試合は初戦を完勝したが、準決勝で敗退。王座初出場だった加治は「たくさん課題が見つかりました。チームとして自信がついた大会でした」と収穫を口にしている。経験値を上げる挑戦だった。

## 大会成績

- ◆関西学生選手権 シングルス決勝 加治 通(6-3)伊藤 加治 通(6-3)伊藤
- ◆ダブルス決勝 加治 通(6-2) 渡邊はるか(6-2) 伊藤 加治 通(6-2) 渡邊はるか(6-2)
- ◆関西大学対抗リーグ 園田女大 3-2 神戸親和女大 園田女大 3-2 関西大 園田女大 3-2 同志社大
- ◆全日本学生室内選手権 4勝1敗優勝 園田女大 園田女大 園田女大 園田女大
- ◆全日本学生室内選手権 シングルス決勝 加治 通(6-2) 伊藤 加治 通(6-2) 伊藤
- ◆ダブルス決勝 加治 通(6-2) 渡邊はるか(6-2) 伊藤 加治 通(6-2) 渡邊はるか(6-2)

## 全日本大学王座4強

シングルスで初めての全国制覇。本戦では1セットも奪われなかった。「ようやく、という気持ち。私以上



## 宇都宮 インカレ 3位

宇都宮は昨年7月の日本選手権混成を前半8位で折り返し、得意の走幅跳を含む後半3種目で挽回。5154点で5位入賞を果たした。インカレでは第2種目の走高跳で自己記録を大きく下回る記録でつまづいた。しかし気持ちは前向き。200m、走幅跳などで順位を上げた。迎えた最終種目の800mは自己新となる2分11秒70で全体の1着

## 女子七種競技



一戦一勝で敢闘賞 剣道部  
 剣道部が昨年11月に行われた全日本女子学生優勝大会でベスト8に進出。敢闘賞を獲得した。優勝した鹿屋体大に準々決勝で敗れたものの、前回の大会からの躍進だった。

を導いた。堤は「一つずつ勝ち上がった。いくつかを感じ、今までの苦しいことを乗り越えて、全力を出し切れました」と振り返り、河野も「一試合でも多く、剣道部の仲間と戦いたいという思いで試合をしました」と一戦一勝の剣道だったことを強調した。

新チームでは橋田紗季(児童教育学科1年)が関西学生新人大会でベスト8に進出した。新主将の武末沙也香(同3年)は「先輩方の戦績を追い越せるように」と意気込む。心技体を厳しく磨いていく。

チームを引いた4年生が卒業するがインカレ棒高跳4位的那須真由(総合健康学科1年)、同砲丸投6位の内田千香子(同2年)、400

に、後半に得点を大きく伸ばし、5311点で3年連続の銅メダルを獲得した。最大の目標だったインカレ優勝は逃したが、宇都宮は「チームメイトと戦った3日間はとても充実している、今までで一番幸せな大会でした」と、全力で駆け抜けた日々を振り返った。

に、後半に得点を大きく伸ばし、5311点で3年連続の銅メダルを獲得した。最大の目標だったインカレ優勝は逃したが、宇都宮は「チームメイトと戦った3日間はとても充実している、今までで一番幸せな大会でした」と、全力で駆け抜けた日々を振り返った。

に、後半に得点を大きく伸ばし、5311点で3年連続の銅メダルを獲得した。最大の目標だったインカレ優勝は逃したが、宇都宮は「チームメイトと戦った3日間とても充実している、今までで一番幸せな大会でした」と、全力で駆け抜けた日々を振り返った。

に、後半に得点を大きく伸ばし、5311点で3年連続の銅メダルを獲得した。最大の目標だったインカレ優勝は逃したが、宇都宮は「チームメイトと戦った3日間とても充実している、今までで一番幸せな大会でした」と、全力で駆け抜けた日々を振り返った。



主要大会上位成績



# 11季連続V

## 関西学生秋季リーグ



### インカレは8強にとどまる

ソフトボールの平成27年度関西学生リーグは園田学園女大が全勝で11季連続41度目の栄冠に輝いた。西日本大学選手権と全日本大学女子選手権でそれぞれ準優勝、8強と目標に届かなかっただけに、リーグ戦連続制覇は自信を取り戻すタイトルとなった。

西日本は攻守に圧倒して決勝へ駒を進めた。しかし肝心の決勝で投打のリズムがそろわず、守備や走塁のミスもあって、2-5で東海学園大に敗れた。

# 1部復帰リーグ戦2部全勝V

平成27年9、10月に行われた関西大学女子秋季リーグの2部は、園田学園女大が7戦全勝で優勝を決めた。入れ替え戦では大阪大谷大にストレート勝ち。1部昇格を達成してシーズンを締めくくった。

春季リーグで1部から2部へ降格した園田学園女大は「絶対1部復帰」の思いで一丸となり、夏場にサーブの強化、ブロックとレシーブの連携に取り組み、秋季リーグで快進撃。神戸学院大との全勝対決となった最終戦はセット数3-2で競り勝ち、全勝Vに輝いた。

余勢を駆って臨んだ入れ替え戦は、2部最優秀選手賞の蔵立有衣(総合健康学科4年)の「最高の試合にしよう」との言葉通りに快勝した。2部サーブ賞&レシーブ賞を獲得した秋元麻希(同4年)は「言葉にならないくらいうれしい」と達成感いっぱい。

込まれ、完封負けを喫した。8強で進撃が止まり、新チームで主将を務めることになった田井亜加音(総合健康学科3年)は「自分たちの力を発揮できなかった」と不完全燃焼を悔やんだ。

主要大会成績	
◆西日本大学選手権	2回戦 ○8-0 至学館大 準々決勝 ○9-0 環太平洋大 準決勝 ○7-1 奈良学園大・奈良文化女短大 決勝 ●2-5 東海学園大
◆全日本大学選手権	1回戦 ○6-1 早稲田大 2回戦 ○6-2 奈良学園大・奈良文化女短大 準々決勝 ●0-3 日本体育大
◆関西学生秋季リーグ(1部)	<1次リーグ> 園田女大 ○4-2 神戸親和女大 ○5-0 大成学院大 ○3-1 天理大 ○3-1 武庫川女大 <2次リーグ> 園田女大 ○3-2 大阪国際大 ○4-1 大阪大谷大 ○6-0 奈良学園大・奈良文化女短大 ○4-3 立命館大

秋季リーグは「関西で1位にならないければ、インカレ優勝にも届かない」との気持ちで連勝を築く。最終戦を待たずに、田井らの本塁打が3本飛び出した第7戦目でリーグ制覇を決めた。この試合に先発した原奈々(児童教育学科2年)は「関西優勝はひとつの通過点」と、視線はあくまでインカレ制覇に向く。連続優勝を途切れさせてはならないとのプレッシャーもあり、1年生の屋瀬未奈(総合健康学科)は「先輩方が練習を積み重ねていく。



養学科3年)ら新チームは1部上位をめざして戦い続けることになる。

### リーグ戦2部3位 昇格の夢持ち越し

平成27年度関西女子学生リーグに挑んだ園田学園女大は1次リーグ4勝1敗、2次リーグ2勝1敗の成績で2部3位。1部入れ替え戦に進めなかった。



前年のリーグ戦で2部優勝ながら1部入れ替え戦に敗れ、今季こそはと意気込んでいたバスケットボール部。1次リーグでは快勝や接戦を繰り広げ、上位による2次リーグに進んだ。初戦を落としたが、気持ち

を立て直し、2戦目からは粘りを発揮。残り2戦を連勝した。しかし2部2位以内には食い込めず、1部昇格への挑戦は来季に持ち越された。

主将の宮本明寿香(児童教育学科4年)は「目標とした結果ではありませんが、メンバー、ベンチ、ベンチ外の部員、みんなが役割を果たし、園田らしい試合ができました」と言い、後輩たちに向け、「チームとして横の層がしっかりする必要がある」と強いチームづくりを託した。新主将は田中友里乃(総合健康学科3年)。引き続き、「1部昇格」が合言葉になる。

### ラクロス部

今年度は関西学生リーグ1部昇格を目標に、前年度よりもハードな練習を1年間行ってきた。結果は2部Bブロック5位と非常に



に悔しさの残る結果で終了しました。努力の成果を結果で表すことはできませんでしたが、今までの努力が必ず実を結び、信じ、次年度こそは今年達成できなかった1部昇格を目指します。

大会成績	
◆関西学生リーグ(2部B)	園田女大 ○10-12 神戸女大 ●6-7 神戸女大 ●11-6 神戸親和女大 △8-8 大阪大谷大 ●5-14 大阪市大 ●4-12 京都大 ○11-6 大阪経大

### 大会成績

◆関西女子学生リーグ	<2部1次リーグ> 園田女大 ○0-92 50芦屋大 ○70-61 京都教育大 ○48-45 大阪教育大 ●68-69 京都学園大 ●68-51 京都産業大 <2部2次リーグ> 園田女大 ●58-69 神戸親和女大 ○75-72 関西大 ○63-54 大阪大谷大 <個人賞> 2部3ポイント王 前田実咲(児童教育学科3年)
◆関西女子秋季リーグ	※リーグ戦2部3位以下のチームが出場 3回戦 ○90-67 滋賀短大 準々決勝 ●76-73 流通科学大 準決勝 ●57-70 京都産業大 3位決定戦 ○64-49 京都教育大

### 軟式野球部

昨年ベスト4と快挙を成し遂げた全日本大学女子選手権。今年度も挑戦者の気持ちを持ち、もう一度ベスト4を目標に挑みました。



1回戦はシード。2回戦、椋山学園女大との対戦は初回に4点を取り、13-2と快勝しました。3回戦は武庫川女大が相手。初回に2点を失い、追う展開に。6回に1点を返したものの、反撃及ばず1-2と惜敗でした。

目標のベスト4には届きませんでした。挑戦者の気持ちを持ち、全力でプレーをすることができ、悔いはありません。来年は再度ベスト4へ挑戦し、必ず達成したいと思っています。

### 大会成績

◆全日本大学女子選手権	2回戦 ○13-2 椋山女大 3回戦 ●1-2 武庫川女大 小野山真(爽やかプレー)賞 受賞
◆関西地区大学女子秋季リーグ	園田女大 ○5-2 武庫川女大 ○0-2 大阪体育大 ○31-1 大阪芸大 △2-1 武庫川女大 △1-2 大阪体育大 ○31-1 大阪芸大

Special Message

園田アスリートの旅立ちの春

テニス部

幾野 ちなつさん

総合健康学科  
大阪産業大附属高校出身  
オプテックヴィジョン株式会社 内定

「学業とクラブを両立でき、充実した練習環境や指導者に恵まれた4年間でした。周囲に目を配ったり、計画を立てたりすることでチームをマネジメントする重要性を学べたと思います。社会に出ても、周りの人を笑顔にできるような女性に成長していきたいです」

バレーボール部

秋元 麻希さん

総合健康学科  
日ノ本学園高校出身  
サンデンホールディング株式会社 内定

「部活ではマネージャーをしていました。実習や就職活動では先生方のサポートが心強かったです。春から保育士になるので、部活で学んだ『気配り』を忘れず頑張ります。先輩の皆さんにも、自分の夢や今しかできないことを追いかけてほしいと思います」

陸上競技部

竹内 秋子さん

児童教育学科  
園田学園高校出身  
保育士 内定